

## 政策評価調書(4年度実績)

政策名	「まち・ひと・しごと」を支える交通ネットワークの充実	政策コード	Ⅲ-4	関係部局名	土木建築部、企画振興部、商工観光労働部
-----	----------------------------	-------	-----	-------	---------------------

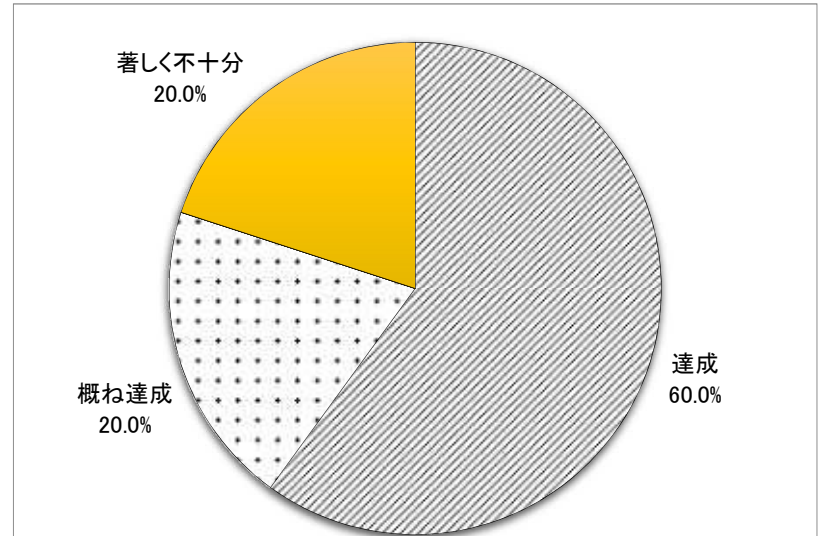
### 【Ⅰ. 政策の概要】

本県が九州の東の玄関口として、人や物の流れを増やしていくため、フェリー航路、航空路線などの広域公共交通ネットワークの充実や、港湾・空港などの拠点施設の機能強化を図るとともに、広域道路交通網整備や東九州新幹線整備計画路線格上げの取り組み、産業や生活を支える道づくり、快適な都市空間の形成など、まち・ひと・しごとを支える基盤を整備する。

### 【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

施策名		指標評価	総合評価
1	九州の東の玄関口としての拠点化	達成不十分	B
2	広域交通ネットワークの整備推進	達成	A
3	まちの魅力を高める交通ネットワークの構築	達成	A

### 【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



達成	概ね達成	達成不十分	著しく不十分	指標合計
3	1	0	1	5

### 【Ⅴ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

本県は、九州と本州・四国との間を結ぶ多くのフェリー・RORO船航路を有し、また東九州自動車道や中九州横断道路を通じ、人や物の流れが活性化しており、九州の東の玄関口としてのポテンシャルが高まっている。  
 中九州横断道路や中津日田道路などの高規格道路の早期整備や東九州自動車道の4車線化を進めるなど、広域交通ネットワークの充実を図るとともに、貨物需要の増大や新規就航等のニーズに対応した港湾機能の強化を推進していくことが重要である。  
 コロナ禍により、フェリー・航空輸送人員は著しく減少したものの、全国旅行支援等により旅行需要が回復しつつあり、R5年6月には大分空港の韓国線が再開するなど、更なる利用者の回復が想定されている。また、大分空港へのホーバークラフト運航開始に向け、時宜をとらえた施策展開が重要である。  
 また、都市部における交通渋滞の解消や公共交通の維持・確保等にも、引き続き取り組む必要がある。

### 【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

指標名	達成率
フェリー・航空輸送人員(千人)	75.0%
<p>&lt;著しく不十分となった理由&gt;                      全国旅行支援等により前年度に比べ利用者数は増加したものの、新型コロナウイルスの影響による需要の低迷が続いたため、目標値を達成できなかった。                      コロナ禍からの再活性化に向け、航空・フェリー会社と連携した利用促進策や国際線の運行再開に取り組む。</p>	